

島根大学ミュージアム年報

Annual Report of Shimane University Museum

平成21年度

2010.4

島根大学ミュージアム

Shimane University Museum

序 文

ミュージアム創設4年目となる平成21年度も、多種多様な業務の遂行に邁進してまいりました。

まず、本学が有する国登録有形文化財「島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）」が、平成21年10月、修復工事を完了し、新たにミュージアムのサテライト施設としてオープンしました。本事業の推進にあたっては、本学教職員、卒業生、地域市民の方々、松江市など、学内外各方面から多大な御協力、御支援を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。幸いにもオープン以来、多くの来館者にご見学いただいているところですが、今後とも持続的に活用していくために、全力で関係業務に邁進していきたいと思いを新たにしているところです。

また、平成21年度も引き続き、月1回の連続市民講座を開催したり、企画展示を開催したりするなど、本学の標本・資料や研究成果を活用した普及啓発活動を行い、市民の方々にPRすることができました。

ミュージアムでは、こうした活動と並行し、本学構内における開発工事に伴う埋蔵文化財の保護・調査研究について、文化財保護法に準拠しながら取り組んでおります。平成21年度も、松江・出雲両キャンパスにおいて、携帯電話アンテナ設置工事や附属病院関係の新営工事を始めとした開発事業があり、これらに伴う発掘調査に奔走することになりました。

国立大学の個性や伝統を可視化していくうえで、大学ミュージアムは無くてはならない施設であると確信しております。また、「人とともに・地域とともに」を標榜し、地域に密着した大学を目指す島根大学にとって、教育研究機関としての大学と地域社会とのインターフェイスとなる大学ミュージアムの役割は益々重要なものになっていくと思います。

わずかな教職員で運営されている小さな組織ではありますが、何事も真摯に取り組んでいく所存です。今後とも、学内外の皆様からのご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成22年4月

島根大学ミュージアム館長 林 正 久

目 次

I 規則・組織	
1 規則	1
(1) 鳥根大学ミュージアム規則	
(2) 鳥根大学ミュージアム管理運営委員会規則	
(3) 普及啓発専門委員会要項	
(4) 鳥根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会要項	
(5) 埋蔵文化財専門委員会要項	
(6) 鳥根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準	
2 組織	8
(1) 組織構成と構成員	
(2) 管理運営委員会	
(3) 専門委員会	
II 活動報告	
1 主な活動日誌抄	10
2 標本資料類等の収集、整理・保管、調査研究	12
(1) 標本資料類等の収集	
(2) 標本資料類等の整理・保管	
(3) 標本資料類等の調査研究	
3 標本資料類等に関わる教育、普及啓発	12
(1) 入館者数	
(2) 常設展示	
(3) 企画展示	
(4) 展示案内・キャンパスツアー等	
(5) 公開講座・フィールド体験ツアー等	
(6) 講義（鳥大ミュージアム学）	
4 博物館学教育	22
5 標本資料類等に関わる情報発信、地域貢献	23
(1) 刊行物の発行・配布	
(2) インターネット	
(3) データベース	
(4) 地域貢献活動	
6 本学構内の埋蔵文化財の取扱い	23
(1) 鳥根大学ホール新営工事に伴う試掘調査・確認調査	
(2) 鳥根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査（ヘリポート・格納庫建設予定地）	
(3) 鳥根大学構内遺跡第18次発掘調査（橋縄手地区4）	
(4) 工事立会	
(5) 鳥根大学構内遺跡第14・15・16・17・18次発掘調査、鳥根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査の整理・研究	
7 鳥根大学旧奥谷宿舎の活用	28
(1) 鳥根大学旧奥谷宿舎の修復工事	
(2) 鳥根大学旧奥谷宿舎修復工事竣工記念式典	
(3) 鳥根大学旧奥谷宿舎の活用状況	
(4) 鳥根大学旧奥谷宿舎見学者アンケートの結果	
8 その他の活動	32
(1) 大学博物館等協議会2009年大会（第4回博物科学会）への参加	
9 ミュージアム教員の活動記録	32

I 規則・組織

1 規則

(1) 島根大学ミュージアム規則

(平成18年島大規則第9号)
(平成18年3月8日制定)
〔平成19年2月28日一部改正〕
〔平成21年6月25日一部改正〕

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 ミュージアムは、学内共同教育研究施設として、島根大学（以下「本学」という。）における標本資料類などを大学所有の有形知的財産として位置づけ、それらを収集、整理・保管及び調査研究をしたうえで、展示公開などによる教育、普及啓発、情報発信の促進及び地域貢献などを行うことを目的とする。

(業務)

第3条 ミュージアムは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 標本資料類などの収集、整理・保管及び調査研究に関すること。
- 二 標本資料類などに関わる教育及び普及啓発に関すること。
- 三 博物館学教育に関すること。
- 四 標本資料類などに関わる情報発信の促進及び地域貢献に関すること。
- 五 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。
- 六 その他ミュージアムの目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 ミュージアムに、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 専任教員
- 四 その他必要な職員

2 ミュージアムに兼任研究員及び学外協力研究員を置くことができる。

(館長)

第5条 館長の選考は、本学の専任教授のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の発議に基づき、教育研究評議会の議を経て、学長が行う。

2 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 館長は、ミュージアムの業務を掌理する。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、本学の専任教員のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の推薦に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 副館長は、館長を補佐し、ミュージアムの業務を整理する。

(専任教員)

第7条 専任教員は、第3条に掲げられた事項に関し専門的知識又は相当な経験を有する者とする。

2 専任教員の選考は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

(兼任研究員)

第8条 兼任研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する者で、全学的立場からミュージアムの業務を推進する者とする。

2 兼任研究員は、本学専任教員のうちから、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 館長は、前項の推薦に当たっては、当該教員が所属する部局等の長の同意を得るとともに、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経なければならない。

4 兼任研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(学外協力研究員)

第9条 学外協力研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する学外の者で、ミュージアムの業務推進に協力する者とする。

2 学外協力研究員は、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経て、館長が委嘱する。

3 学外協力研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理運営委員会)

第10条 ミュージアムに関する基本的事項を審議するため、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)を置く。

2 管理運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 ミュージアムの事務は、財務部施設企画課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、ミュージアムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 島根大学埋蔵文化財調査研究センター規則(平成16年島大規則第162号)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年7月1日から施行する。

(2) 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則

(平成18年島大規則第10号)

(平成18年3月8日制定)

[平成19年2月28日一部改正]

[平成21年6月25日一部改正]

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム規則(平成18年島大規則第9号)第10条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 管理運営委員会は、島根大学ミュージアム(以下「ミュージアム」という。)に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 管理運営の基本方針及び事業計画に関すること。
- 二 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。
- 三 館長及び副館長の推薦に関すること。
- 四 教員の人事(資格審査を含む。)に関すること。
- 五 予算及び決算に関すること。

六 その他ミュージアムの管理運営に関すること。

(組織)

第3条 管理運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 各学部教員代表 各1名
- 五 附属図書館長
- 六 総合情報処理センター長
- 七 生涯学習教育研究センター長

2 第1項第4号の委員は、学部長の申出に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 管理運営委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4条 管理運営委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

3 管理運営委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ会議を開くことができない。

4 管理運営委員会は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

5 管理運営委員会が必要と認めたときは、管理運営委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第5条 管理運営委員会に専門的事項を審議するため、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、管理運営委員会が別に定める。

(事務)

第6条 管理運営委員会の事務は、財務部施設企画課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年7月1日から施行する。

(3) 普及啓発専門委員会要項

平成21年6月11日

島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム普及啓発専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 シンポジウム、研究会、公開講座等の企画及び実施
- 二 ニュースレター、広報等の編集・刊行

三 その他普及啓発に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

1 この要項は、平成21年6月11日から実施する。

2 島根大学ミュージアム専門委員会内規（平成18年4月28日制定）は、廃止する。

(4) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会要項

平成21年6月11日

島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 島根大学旧奥谷宿舎の運営に係る基本計画に関すること。
- 二 島根大学旧奥谷宿舎を利用した活動等の企画及び実施
- 三 その他島根大学旧奥谷宿舎に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

この要項は、平成21年6月11日から実施する。

(5) 埋蔵文化財専門委員会要項

平成21年6月11日
鳥根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、鳥根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年鳥大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、鳥根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査・試掘調査・確認調査・工事立会に係る基本計画に関すること。
- 二 埋蔵文化財の修復保存に係る基本計画に関すること。
- 三 その他埋蔵文化財に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

1 この要項は、平成21年6月11日から実施する。

2 鳥根大学ミュージアム専門委員会内規（平成18年4月28日制定）は、廃止する。

(6) 鳥根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準

1 目的

本基準は、文化財保護法（昭和25年法律第214号）の趣旨を尊重し、鳥根大学敷地内の開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る基本的な判断基準を定め、埋蔵文化財を適切に保護し、将来への保存を図ることを目的とする。

2 適用対象

本基準は、鳥根大学が所有する全ての敷地内における開発に伴う埋蔵文化財取扱いに適用する。

3 定義

(1)「試掘調査」とは、埋蔵文化財の有無が地表面の観察等からでは判断できない場合に、部分的に発掘する調査をいう。

(2)「確認調査」とは、埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格・内容等の概要までを把握するため、部分的に発掘する調査をいう。

(3)「発掘調査」とは、開発事業等の際し、影響を受ける埋蔵文化財を事前に発掘し、詳細な記録を作成する措置を執ることをいう。

(4)「工事立会」とは、工事の施工の際し、専門職員等が立ち合い、遺構・遺物包含層等が確認

される等のことがあった場合には、必要に応じて適切な措置を執ることをいう。

(5)「慎重工事」とは、埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで慎重に施工することをいう。

4 埋蔵文化財として取扱う時代範囲

(1) 近世までに属する遺跡は、原則として全て埋蔵文化財として取扱うこととする。

(2) 近現代の遺跡については、鳥根県や各市町村ならびに鳥根大学の歴史解明のために重要なものを埋蔵文化財として取り扱うこととし、その決定は、鳥根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

5 「発掘調査」を要する範囲の決定

埋蔵文化財の「発掘調査」を要する範囲は、それまでに行われた諸調査の成果に加え、必要に応じて「試掘調査」・「確認調査」等を実施したうえで、鳥根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において決定する。

6 埋蔵文化財取扱いの判断基準

開発事業に際しての埋蔵文化財の取扱いについては、次の原則と別表に基づいて、「発掘調査」その他の措置を講ずるものとし、その決定は、鳥根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

(1) 次の場合においては、「発掘調査」を実施するものとする。

ア 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。

イ 掘削が埋蔵文化財に影響を及ぼさない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

ウ 一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

エ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態となる場合。

(2) 次の場合においては、「工事立会」を行うものとする。

ア 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。

イ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。

(3) 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合等は、「慎重工事」の措置を講ずる。なお、施工中に遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとり、所定の手続きをとる。

7 鳥根県教育委員会・関係市町村教育委員会との連携について

埋蔵文化財の取扱いに関しては、鳥根県教育委員会をはじめ関係市町村教育委員会と十分な連携をはかり、慎重に判断するものとする。

8 開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れ

開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れは、別図に基づいて適切に進めるものとする。

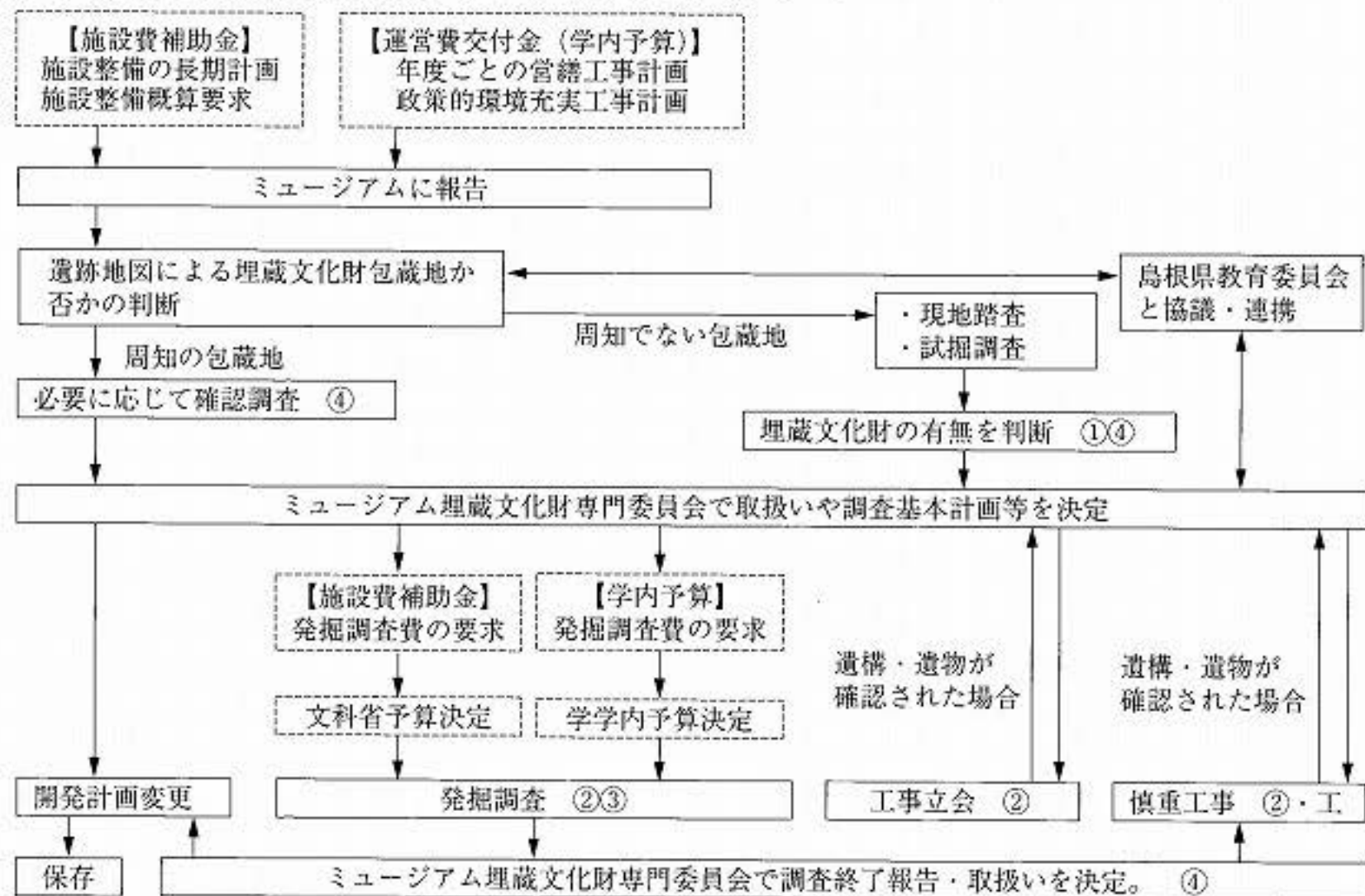
附 則

本基準は、平成18年4月1日から適用する。

別表

工事内容・種類	取扱い	
<ul style="list-style-type: none"> ・工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。 ・掘削が埋蔵文化財に直接及ばない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。 ・通常20年以上の耐久度を有しない一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。 ・通常20年以上の耐久度を有した恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態になる場合。 	開発事業等に際し、事前に「発掘調査」を実施し、詳細な記録を作成する。	発掘調査
道路 厚さ2m以上の恒久的な盛土・埋立 校舎・共同溝等の建築物・埋納物		
<ul style="list-style-type: none"> ・一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。 ・恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。 	工事の施工中に調査員が立ち会い、遺構・遺物包含層等が確認される等があった場合には、その記録をとり、工事を変更する等、適切な措置を講ずる。 ただし、次の場合においては、発掘調査を実施するものとする。 ・将来において発掘調査が可能な条件が満たされない場合。 ・遺構面あるいは遺物包含層上面から厚さ30cm程度の保護層が確保できない場合。 ・掘削等により埋蔵文化財に影響が及ぶ部分とそうでない部分、あるいは埋蔵文化財に影響が及ぶ部分と盛土・埋立の部分が著しく交錯する場合。 ・現地表面に立体的に遺存する埋蔵文化財が、盛土等の施工に伴う地形の変化により、外観上所在が把握できなくなる場合	工事立会
道路 歩道 植樹帯・緑地帯 野球場・競技場 駐車場 公園・緑地 厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立		
<ul style="list-style-type: none"> ・既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合。 	埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで、慎重に施工し、遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとる。	慎重工事

別図 開発と埋蔵文化財取扱いについてのフローチャート



(注)

- ①遺構・遺物を確認した場合、「遺跡発見届」を鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ②「埋蔵文化財発掘届（文化財保護法）第93条第1項」を調査（工事）開始60日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ③「埋蔵文化財発掘届（文化財保護法92条第1項）」を調査開始30日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ④遺物を発見した場合、「埋蔵文化財発見届」を所轄警察署に提出。

2 組織

(1) 組織構成と構成員

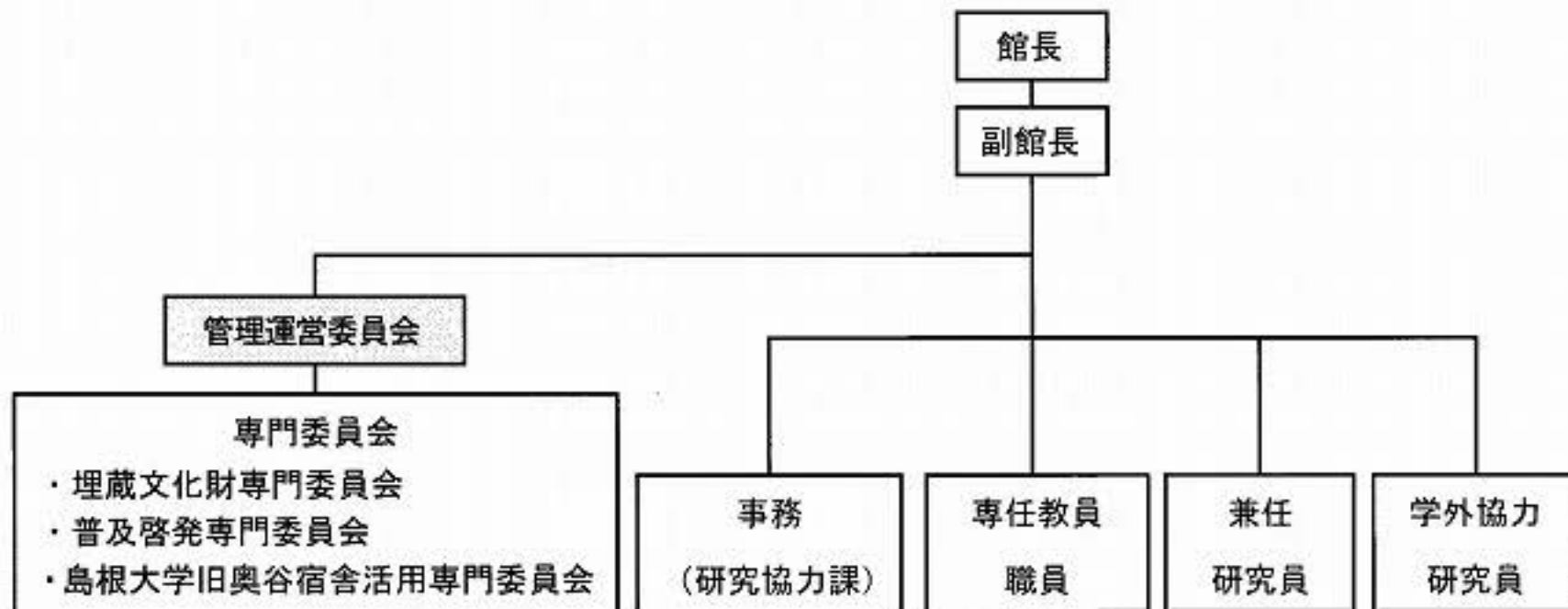


図1 ミュージアムの組織図

館長	生物資源科学部 教育学部	教授	松野 煒 (平成21年9月30日まで)
副館長	ミュージアム	教授	林 正久 (平成21年10月1日から)
兼任研究員	法文学部	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	法文学部	准教授	山田 康弘
	法文学部	准教授	岩本 崇
	法文学部	准教授	小林 准士
	法文学部	准教授	西田 兼
	法文学部	准教授	飯野 公央
	教育学部	教授	林 正久 (平成21年9月30日まで)
	教育学部	教授	大谷 修司
	教育学部	准教授	作野 広和
	医学部	教授	小林 裕太
	総合理工学部	教授	三瓶 良和
	総合理工学部	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	教授	片桐 成夫
	生物資源科学部	准教授	秋吉 英雄
	生物資源科学部	准教授	山岸 主門
	生涯学習教育研究センター	教授	仲野 寛
	国際交流センター	教授	安藤 安則
学外協力研究員	松江市政策部政策企画課	課長	藤原 亮彦
職員	研究協力課	技術補佐員	田中 浩子

(2) 管理運営委員会

委員長	館長	教授	松野 煒 (平成21年9月30日まで)
		教授	林 正久 (平成21年10月1日から)
委員	副館長・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	教育学部	教授	林 正久 (平成21年9月30日まで)

教育学部	准教授	作野 広和 (平成21年10月1日から)
医学部	教授	安井 幸彦
総合理工学部	教授	横田修一郎
生物資源科学部	教授	北村 憲二
附属図書館長	教授	平川 正人
総合情報処理センター長	教授	野田 哲夫
生涯学習教育研究センター長	教授	山下 政俊

(3) 専門委員会

埋蔵文化財専門委員会

委員長 館長	教授	松野 煒 (平成21年9月30日まで)
委員 副館長・専任	教授	林 正久 (平成21年10月1日から)
法文学部	准教授	會下 和宏
法文学部	教授	大橋 泰夫
法文学部	准教授	山田 康弘
教育学部	准教授	岩本 崇
医学部	教授	林 正久 (平成21年9月30日まで)
総合理工学部	教授	小林 裕太
総合理工学部	教授	三瓶 良和
生物資源科学部	准教授	酒井 哲弥
	教授	片桐 成夫

普及啓発専門委員会

委員長 館長	教授	松野 煒 (平成21年9月30日まで)
委員 副館長・専任	教授	林 正久 (平成21年10月1日から)
法文学部	准教授	會下 和宏
法文学部	准教授	小林 准士
教育学部	准教授	西田 兼
教育学部	教授	林 正久 (平成21年9月30日まで)
医学部	教授	大谷 修司
総合理工学部	教授	小林 裕太
総合理工学部	教授	三瓶 良和
生物資源科学部	准教授	酒井 哲弥
	准教授	秋吉 英雄

島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会

委員長 館長	教授	松野 煒 (平成21年9月30日まで)
委員 副館長・専任	教授	林 正久 (平成21年10月1日から)
法文学部	准教授	會下 和宏
教育学部	准教授	飯野 公央
医学部	准教授	作野 広和
生物資源科学部	教授	小林 裕太
生涯学習教育研究センター	准教授	山岸 主門
国際交流センター	教授	仲野 寛
学外協力研究員	教授	安藤 安則
		藤原 亮彦

Ⅱ 活動報告

1 主な活動日誌抄

平成21年4月

- 4月4日(土) 島根大学公開講座「第4回・島根まるごとミュージアム体験ツアーー松江城下町を歩くー」第1回開催。松江市橋北地区見学。
- 4月11日(土) 島根大学公開講座「第4回・島根まるごとミュージアム体験ツアーー松江城下町を歩くー」第2回開催。松江市橋南地区見学。
- 4月27日(月) 大学ホールの工事に伴う試掘調査実施。埋蔵文化財専門委員会(現地検討会)開催。
- 4月27日(月) ミュージアム管理運営委員会開催。

平成21年5月

- 5月21日(木)～22日(金) 大学博物館等協議会2009年度大会・第4回博物科学会(於鹿児島大学)出席。
- 5月30日(土) 第11回ミュージアム市民講座「島根大学樹木探検」開催。

平成21年6月

- 6月3日(水) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会開催。
- 6月8日(月) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会開催。
- 6月9日(火) 松江ろう学校高等部の生徒が校外授業でミュージアム見学。
- 6月23日(火) 川津小学校・大学探検で、3年生児童30名がミュージアム見学。
- 6月27日(土) 第12回ミュージアム市民講座「島根周辺での日本海の形成は“洪水”とともに始まった? 島根半島の地層が記録する日本海の成り立ち」開催。

平成21年7月

- 7月7日(火) ミュージアム管理運営委員会開催。
- 7月11日(土) 第13回ミュージアム市民講座「松江平野の土地条件と水害」開催。
- 7月13日(月)～16日(金) ヘリポート・格納庫建設に伴う島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査。
- 7月16日(金) 埋蔵文化財専門委員会(島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査現地検討会)開催。
- 7月25日(土) 夏休み子どもミュージアム体験教室「川の健康診断をしよう!」雨天のため中止。

平成21年8月

- 8月3日(月) 福井県の受験生がキャンパスツアー参加。
- 8月8日(土) 島根大学オープンキャンパスで参加者がミュージアム見学。
- 8月8日(土) 第14回ミュージアム市民講座「山陰の弥生遺跡からみる環日本海交流」開催。

平成21年9月

- 9月18日(金) 三重大学、ミュージアム視察。
- 9月19日(土) 第15回ミュージアム市民講座「山陰の化石群からわかる1600万年前～1200万年前の地球環境変動ー温暖期から寒冷期へー」開催。
- 9月30日(水) 川津小学校課外授業「町探検に出かけよう!」で児童がキャンパスツアー参加。

平成21年10月

- 10月3日(土) 島根大学ホームカミングデーでキャンパスツアー開催。
- 10月3日(土)～11日(日) 附属図書館企画展示にあわせてミュージアムも特別開館。
- 10月8日(木) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会開催。
- 10月13日(火) ミュージアム管理運営委員会開催。
- 10月10日(土) 第16回ミュージアム市民講座「中海・宍道湖の底質環境と地球環境・地球資源」開催。
- 10月20日(火) 講演会「松江の宝・島根大学旧奥谷宿舎への想いーカルシュの足跡と残した偉

業一」開催。

10月21日(水) 鳥根大学旧奥谷宿舎修復工事竣工記念式典挙行。

10月24日(土) 鳥根大学旧奥谷宿舎が一般向けにオープン。

10月24日(土)～11月29日(日) 企画展示「松江温故知新 江戸～平成のひと・まち・なりわい」開催。

10月24日(土) 法文学部オープンカレッジで20名の学生がミュージアム見学。

10月26日(月)～11月25日(水) 鳥根大学構内遺跡第18次発掘調査(松江キャンパス第1体育館東側)実施。

平成21年11月

11月5日(木) 昭和38年度鳥根大学教育学部卒業生15名がキャンパスツアー参加。

11月13日(金) 福山市の受験生がキャンパスツアー参加。

11月14日(土) 第17回ミュージアム市民講座「岸崎佐久次と出雲国風土記」開催。

11月19日(木) 埋蔵文化財専門委員会(鳥根大学構内遺跡第18次調査現地検討会)開催。

11月21日(土) ミュージアム出張授業(山陰インテリアコーディネーター協会研修会)で奥谷界限町歩き開催。

11月21日(土) 「まちなみ・たてもの探検ツアー(NPO法人まつえまちづくり塾・鳥根県主催)」で鳥根大学旧奥谷宿舎見学。

11月25日(水) 山陰ケーブルビジョン・マープルTVの番組「松江・美の遺産」で鳥根大学旧奥谷宿舎を撮影。

11月28日(土) 鳥根大学公開講座「第5回・鳥根まるごとミュージアム体験ツアーー商工業の町・松江市石橋町の酒蔵・醤油蔵をめぐるー」第1回開催。松江市石橋町「李白酒造」見学。

平成21年12月

12月5日(土) 鳥根大学公開講座「第5回・鳥根まるごとミュージアム体験ツアーー商工業の町・松江市石橋町の酒蔵・醤油蔵をめぐるー」第2回開催。松江市石橋町「カネモリ醤油」見学。

12月12日(土) 冬季子どもミュージアム体験教室「クリスマスを通じてドイツ文化を体験しよう♪」開催。

12月12日(土) 第18回ミュージアム市民講座「鳥根県における明治時代の漢詩」開催。

12月14日(月) 県立横田高校生徒20名が大学訪問でミュージアム見学。

12月21日(月) 鳥根大学附属小学校児童30名がミュージアム見学。

12月28日(月) ドイツ人留学生在が旧奥谷宿舎見学。

平成22年1月

1月13日(水) 鳥根大学旧奥谷宿舎で「みのりの小道(生物資源科学部主催)」開催。

1月23日(土) 第19回ミュージアム市民講座「松江白湯天神絵図のデジタル化と土地利用の復元」開催

平成22年2月

2月20日(土) 第20回ミュージアム市民講座「松江のまちの移り変わり」開催。

2月20日(土)～4月16日(金) 企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」開催。

2月21日(日) 企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」ギャラリートーク開催(2010/2/21)

2月23日(火) 花園大学学生25名がミュージアム見学。

平成22年3月

3月6日(土)～3月7日(日) 「まつえ城北まちあるき(NPO法人まつえ・まちづくり塾主催)」で鳥根大学旧奥谷宿舎見学。

3月6日(土) 第21回ミュージアム市民講座「明治の博覧会と『出雲石見魚漁図解』」開催。

3月6日(土) 鳥根大学旧奥谷宿舎で「みのりの小道(生物資源科学部主催)」開催。

3月6日(土)～3月22日(月) 「奥谷タイムトンネル2ー続・古くて新しい鳥根をさがしにー(ど

こでもミュージアム研究所・島根大学ミュージアム共催)開催。
3月27日(土) 春休み子どもミュージアム体験教室「春をさがしてみよう！」開催。

2 標本資料類等の収集・整理・保管・調査研究

(1) 標本資料類等の収集

下記の資料の寄贈を受けた。

資料名	受入元	数量	備考
旧制松江高等学校ドイツ語教師・ハンス・シュワルベ写真	金築修氏(元島根大学長・旧制松江高等学校同窓会長)	1枚	
水墨画「ヘルンさん どこへ」	書画家・石飛鴻氏	1点	額装

(2) 標本資料類等の整理・保管

島根大学構内遺跡出土遺物や上記標本類等のミュージアム所蔵資料は、ミュージアム本館の建物内収蔵室において適切な環境のもとに整理・保管している。

(3) 標本資料類等の調査研究

①島根大学構内遺跡出土遺物の研究

「Ⅱ-6 本学構内の埋蔵文化財の取扱い」で後述する。

②島根大学及び前身校に関する資料調査

本学事務局が所蔵する本学や前身校の写真、行政文書等を収集し、特に島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)や本学に在籍していた過去の著名な教官等について調査した。

3 標本資料類等に関わる教育、普及啓発

(1) 入館者数

松江キャンパス

学内の展示施設のうち、ミュージアム本館(ミュージアム管轄)と山陰地域資料展示室(汽水域研究センター管轄)の入館者数は下表の通りである。

ミュージアム本館は、平日(月～金)の午前9時～午後4時30分開館で、時間内は見学者を随時受け入れる体制になっているが、山陰地域資料展示室は、通常は閉鎖されており、見学希望者のみに案内するため、団体見学者が多数を占める結果となっている。

10月の入館者数が多い要因は、特別授業「島大ミュージアム学(受講登録者238名)」で見学したためである。冬季には見学者数がやや減少する傾向がみられたが、1月を除くと例年に比べて改善傾向にある。

次年度以降、さらに広報・周知をはかり、1ヶ月あたりコンスタントに100人以上の入館者数確保を目指したい。

また、小規模展示室が分散し、ミュージアム本館以外が通常閉鎖されている現状では、飛び込みの見学者を増やしていくため、ある程度の面積をもつ一元的なコア展示室の整備について今後とも粘り強く要望していきたい。

平成21年度の入館者数(島根大学ミュージアム本館・山陰地域資料展示室)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ミュージアム本館	76	31	83	72	46	52	158	42	80	28	46	28	742
山陰地域資料展示室	21	0	41	5	35	18	316	20	71	0	28	1	556
計	97	31	124	77	81	70	474	62	151	28	74	29	1298

松江市奥谷町サテライト：島根大学旧奥谷宿舎

松江市奥谷町にあるサテライト施設・島根大学旧奥谷宿舎は、平成21年10月21日に竣工記念式典を挙行し、10月24日から原則、土日祝日のみ開館している。入館者数は下表の通りである。

10～11月のオープン当初は、報道の影響等もあってか、多くの入館者数をみた。天候の悪い冬季にはいり、若干減少しているが、2月後半から3月にかけて再び増加傾向に転じている。3月の入館者数増は、どこでもミュージアム研究所主催のアートギャラリー「奥谷タイムトンネル2」による部分が多い。

1年目の滑り出しは、ひとまず好調であったが、2年目以降、持続的・安定的な入館者数の確保を目指していく必要がある。定期的なイベント・展示会の開催・誘致、松江市等とも協力した広報活動等を今後とも進めていきたい。また、現状では松江市内在住の見学者が大半であるため、近隣の松江城や塩見縄手の観光客をいかに宿舎まで誘客するかが課題となる。これについては、松江市観光パンフレットへの掲載や旅行業者との提携等様々な対策を講じていきたい。

平成21年度の入館者数（サテライト：島根大学旧奥谷宿舎）

	土曜日	日曜日	祝日	その他	計
10月21日～	175（2日）	54（1日）	—	150（竣工記念式典等、1日）	379（4日）
11月	176（4日）	99（5日）	57（3日）	231（授業等、2日）	563（14日）
12月	89（4日）	58（4日）	6（1日）	27（授業等、3日）	180（12日）
1月	34（4日）	56（4日）	8（1日）	30（イベント、1日）	128（10日）
2月	66（4日）	120（4日）	5（1日）	—	191（9日）
3月	229（4日）	184（4日）	51（1日）	—	464（9日）
計	769（22日）	571（22日）	127（7日）	438（7日）	1905（58日）

*（ ）内は開館日数。

（2）常設展示

島根大学ミュージアムは、学内にある様々な展示施設・資料を「まるごとミュージアム」として位置付け、総称したものである。主な展示施設・内容は以下の通りである。

①松江キャンパス

■島根大学ミュージアム本館

島根大学ミュージアムのコア施設。島根大学のキャンパス内は、大学ミュージアム（平成6～17年度は埋蔵文化財調査研究センター）によって、永年にわたり発掘調査がおこなわれており、主に、こうした島大キャンパス出土の考古資料を展示している。また、本館には、ミュージアム職員が常駐し、島根大学ミュージアムの総合案内、情報発信等を行っている。

<祝休日を除く月～金・午前9時～午後4時30分開館。開館時間内は自由に見学できる。事前に予約すれば、祝休日でも開館。>

■正門門柱（国登録有形文化財）

1924（大正13）年3月建造。松江市忌部産の花崗岩（白御影石）製の正門柱2、脇門柱2からなる。旧制松江高等学校の正門として制作・使用された後、島根大学の正門として受け継がれた。2007（平成19）年5月、国登録文化財に登録された。

■「総合理工学部」研究紹介コーナー（総合理工学部3号館1階ロビー）

総合理工学部の教育研究内容や所蔵標本の一部を展示。

<祝休日を除く月～金・午前8時30分～午後5時開館。開館時間内は自由に見学できる。>

■ミニ学術植物園「みのりの小道」（生物資源科学部棟周辺）

生物資源科学部によって運営されている、くつろぎながら学べる植物園。花壇等のほか、研究成果や豆知識等を説明したパネルを配置。整備作業には、学生や地域市民も参加している。

<年中無休。自由に見学できる。>

■「古代出雲文化資料調査室」展示室（ミュージアム本館北隣）

法文学部考古学研究室が所蔵する考古資料の一部を展示。1953（昭和28）年、文理学部の一室に設けられた標本室が、1978（昭和53）年、法文学部歴史学陳列室となり、2005（平成17）年3月、「古代出雲文化資料調査室」2階に移設された。膨大な量の収蔵資料は、故山本清名誉教授によって収集されたものや旧制松江高等学校に保管されていたもの等からなり、日本考古学を研究するうえで貴重なものが多く含まれている。

＜普段は閉館しているが、見学希望者は、ミュージアム本館の職員に申し込めば開館する。＞

■山陰地域資料展示室（汽水域研究センター1階内）

汽水域研究センターの前身である山陰地域研究総合センターが中心となり、1987（昭和62）年10月に「山陰地域研究総合センター資料展示室」が開設された。本展示室は、1992（平成4）年4月に汽水域研究センターが設置されたことに伴い、これを引き継いだものである。動物標本、化石・岩石標本、考古資料等、山陰地域・汽水域に関わる様々な分野の資料が総合的に展示してある。

＜祝休日を除く月～金・午前9時～午後4時開館。見学希望者は、ミュージアム本館の職員か汽水域研究センター事務室の職員に申し込めば対応。予約不要。＞

■「同窓会連合会」展示コーナー（附属図書館1階内）

鳥根大学や前身校である松江高等学校・鳥根師範学校・鳥根農科大学等の学校史に関わる写真・資料等が展示してある。

＜祝休日を除く月～金・午前10時～午後3時開館。開館時間内は自由に見学できる。＞

■附属図書館本館

附属図書館本館には、一般の蔵書のほか、膨大な量の古文書、絵図、貴重資料等が所蔵されている。正面入口を入って左側にミニ展示コーナーがあるほか、3階に小泉八雲関係の書籍・パネルを展示した「八雲文庫（8：30～17：00）」が設けてある。

＜開館時間 月～金：午前9時～午後9時30分（授業のない期間は午後5時まで）

土・日・祝休日：午前10時～午後5時30分（授業のない期間は休館）

休館日 授業のない期間の土・日・祝休日、定例図書整理日（偶数月第4水曜日）

年末年始（12月29日～1月4日）、特別整理期間（8月中旬及び3月下旬）＞

■「菅田ヶ丘古墳」移築展示

第2食堂の横には、移築復元された「菅田ヶ丘古墳」がある。もとは、ここから西方約50mの丘の上にあった、長さ約30m・高さ約3.5mの古墳。5世紀後半頃につくられたと考えられている。

＜年中無休。自由に見学できる。＞

②出雲キャンパス

■附属図書館医学分館

附属図書館医学分館には、一般の蔵書のほか、大森文庫、古医書、明治以前の医療器具等がある。このうち、2階閲覧室前廊下には、華岡青洲の業績、大森不明堂三楽が学んだ華岡流医術、不明堂の医学塾生活、地元母里藩に帰国後の大森家の診療等、10枚のパネルで、大森文庫の内容を概観することができる。

＜開館時間 月～金：午前9時～午後8時、土・日・祝休日：午前10時～午後4時

休館日 年末年始（12月28日～1月4日）その他分館長が認めた日＞

■平野勲画伯ギャラリー（附属病院総合ホール内）

附属病院総合ホールの一角にて、地元出雲市の出身で、ふるさとのまつり・郷土芸能を描き続ける著名な漫画家・平野勲画伯の作品を展示。

③鳥根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）：松江市奥谷町サテライト

旧制松江高等学校外国人教師（独語教師）向けに建てられた2階建て洋風建築の官舎。1924（大正13）年11月竣工。戦後は、鳥根大学の外国人教師宿舎、職員宿舎等として利用された。2007

(平成19)年5月、国登録文化財に登録された。今年度、修復工事を実施し、2009(平成21)年10月にサテライト施設としてオープンした。

現在は、1階常設展示室①②で「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」を開催。

<原則として土・日・祝休日・午前10時～午後5時開館>

(3) 企画展示

①「松江温故知新—近世～近代のひと・まち・なりわい—」

主催 島根大学ミュージアム・島根大学「歴史・文化資源を活かした地域まるごとミュージアム化実践プロジェクト」

後援 松江開府400年祭推進協議会

協力 島根大学附属図書館

期間 平成21年10月24日(土)～11月29日(日)の土日祝日 10:00～17:00

会場 島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町)・1階多目的室

内容

島根大学プロジェクト研究推進機構・萌芽研究プロジェクト「歴史・文化資源を活かした地域まるごとミュージアム化実践プロジェクト」の研究成果を展示。

主に島根大学附属図書館の所蔵資料をもとに、江戸時代から現代にかけての松江の歴史・文学について「ひと・まち・なりわい」をキーワードにして解説する。

展示大テーマ	展示小テーマ	展示資料
1. 城下町の歴史	1-1. 地図・古写真でみる城下町	・「松江城下町絵図<堀尾期>(複製)」 ・「松江城下町絵図<松平期>(複製)」 ・「国土地理院作成の明治・大正の旧版地図(松江)」 ・今岡額縁店の古写真
	1-2. 松江の人口	・解説パネル
2. 松江の産業	2-1. 明治はじめの松江の漁業	・『出雲魚漁図解』
	2-2. 初代松江市長・福岡世徳の松江振興策	・解説パネル
3. 松江の文学と学問	3-1. 松江藩の文学	・『類題八雲集』 ・『出雲国名所歌集』 ・『三巴八雲の仇討』 ・『雲陽秘事記』 ・解説パネル
	3-2. 松江藩の学問(岸崎左久次)	・『出雲国風土記抄』 ・解説パネル
	3-3. 明治の文学	・「松江竹枝」
	3-4. 旧制松江高校の学問	・解説パネル

②「旧制松高・師範学校時代の学問と教育—足立文庫の図書を中心として—」

主催 島根大学「歴史・文化資源を活かした地域まるごとミュージアム化実践プロジェクト」・島根大学附属図書館・島根大学ミュージアム

【第1期】

期間 平成22年2月20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日) 10:00～17:00

会場 島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町)・1階多目的室

(ギャラリートーク:2月21日(日)14:00～15:00、講師:田中則雄島根大学法文学部教授)

【第2期】

期間 平成22年3月1日(月)～4月16日(金) * 3月20日～28日休館

会場 鳥根大学附属図書館本館 1階ロビー

内容

鳥根大学プロジェクト研究推進機構・萌芽研究プロジェクト「歴史・文化資源を活かした地域まるごとミュージアム化実践プロジェクト」の研究成果を展示。展示制作は、主に田中則雄・法文学部教授、昌子喜信・図書館情報課情報サービスグループリーダーによる。

鳥根大学の前身校にあたる旧制松江高等学校・松江師範学校は、文化的功績を残した人々を多く輩出したことで知られている。当時使用された書物は、現在鳥根大学に引き継がれているが、その中に教師と学生たちが学問に励んだ痕跡を見出すことができる。また、松江の地で近代高等教育を受けた人が、さらに研鑽を積んで自分の学問を発展させていったことも、残された書物から窺い知ることができる。

今回の展示では、松江師範学校に学び、郷里境港の発展に務めた足立正（1864～1947）の旧蔵書である足立文庫と旧制松江高等学校時代の蔵書を通して、当時の学問と教育の一端を紹介する。旧制松江高等学校ゆかりの鳥根大学旧奥谷宿舎を会場に、書物を通じて当時の人々の学びの姿を偲んでもらう。

展示大テーマ	展示資料
1. 足立文庫と足立正	・ 足立文庫（近世小説〈読本・滑稽本・実録〉、浄瑠璃本等文学関係の図書、近世の教科書・実用書、足立正の自筆本） ・ 解説パネル
2. 漢詩文と師範学校時代の教科書	・ 松江市二代目市長高橋義比の漢詩集『菊径詩存』 ・ 若槻禮次郎の叔父であり養父であった若槻敬の漢詩集 ・ 師範学校の教科書 ・ 解説パネル
3. 師範学校・松高時代の蔵書	・ 師範学校、旧制松江高等学校の蔵書 ・ 旧制松江高等学校学生が恋愛について書き込みをした武者小路実篤著『友情』等の図書 ・ 解説パネル
4. 松高時代の教科書と松高出身者	・ 旧制松江高等学校で使用されていた教科書 ・ 旧制松江高等学校卒業生、永井隆博士から寄贈された『長崎の鐘』等署名入り自著8冊 ・ 解説パネル

（4）展示案内・キャンパスツアー等

①展示案内

ミュージアム本館に来館した見学者に分かりやすく展示解説したり、別の場所にある展示施設に誘導・案内したりした。

なお、平成21年10月3日(土)～9日(金)、松江市立中央図書館・鳥根県立図書館・鳥根大学附属図書館3館合同企画展示・講演会実行委員会主催「江戸を旅する・明治に学ぶー山陰の歴史、経済、教育・文化ー」の連携企画として、「大学ミュージアムを歩く」を開催した。期間中は、ミュージアム本館・山陰地域資料展示室に常駐し、来館者に展示解説をした。

②キャンパスツアー

地域市民、学校、学内教職員等から予約をうけて、下記の①～⑧基本コースを中心に、学内の展示施設等を解説しながら案内した。

①旧制松江高校～鳥根大学正門の門柱（国登録文化財）

②総合理工学部3号館1F研究紹介コーナー・3号館高層階からキャンパスや市街地を展望

- ③ミュージアム本館
- ④古代出雲文化資料調査室
- ⑤みのりの小道（ミニ学術植物園）
- ⑥汽水域研究センター「山陰地域・汽水域資料展示室」
- ⑦菅田ヶ丘古墳（移築復元）
- ⑧附属図書館、同窓会連合会展示コーナー

主な実施状況は「Ⅱ-1 主な活動の日誌抄」に記してある。今年度は、福井県、広島県福山市の島根大学進学希望受験生等の参加があり、本学の様子を知ってもらおうと、地道だが、有意義な活動であることを再認識した。

この他、地元の川津小学校児童や島根大学OBの方々の参加もあった。10月3日(土)に開催された第3回ホームカミングデーの一企画としてもキャンパスツアーを実施し、久しぶりに母校を巡ることができて懐かしかったという感想をいただいた。

③学園祭特別企画「島大ミュージアム・クイズラリー」(学園祭中止に伴って開催中止)

日時 平成21年10月10日(土)～11日(日) 午前9時～午後4時

場所 島根大学ミュージアム本館展示室・山陰地域資料展示室・みのりの小道

内容 学内の展示室やミニ植物園をめぐる、展示内容に係るクイズに答えてもらい、全問正解で島根大学附属農場産ジャム等のクッズを進呈。(新型インフルエンザの発生に伴って学園祭が開催中止になったため、本企画も中止した。)

(5) 公開講座・フィールド体験ツアー等

①ミュージアム市民講座

平成20年度に引き続き、毎月、土曜日に連続市民講座を開催した。内容は下記の通りである。

■平成21年度・第1ステージ「海と川と緑と人と - 松江の自然史と文化史を学ぶ -」(兼：まつえ市民大学連携講座)

主催 島根大学ミュージアム

共催 島根大学生涯学習教育研究センター・まつえ市民大学

後援 松江開府400年祭推進協議会

場所 松江市市民活動センター・スティックビル（第11回のみ島根大学松江キャンパス）

趣旨

我々が暮らす松江を取りまいてる海や湖、山や緑は、どのような歴史を経て今にいたっているのか？そして自然環境の変化に人はどのように適応してきたのか？地球温暖化が危惧される昨今、本講座では、フィールドワークと講義を交えながら、こうしたテーマについて考える。

・第11回「島根大学樹木探検」(フィールドワーク)

日時 平成21年5月30日(土) 午後1:00～2:30

講師 大谷修司（島根大学教育学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

・第12回「島根周辺での日本海の形成は“洪水”とともに始まった？島根半島の地層が記録する日本海の成り立ち」(講義)

日時 平成21年6月27日(土) 午後1:00～2:30

講師 酒井哲弥（島根大学総合理工学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

・第13回「松江平野の土地条件と水害」(講義)

日時 平成21年7月11日(土) 午後1:00～2:30

講師 林 正久（島根大学教育学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

・第14回「山陰の弥生遺跡からみる環日本海交流」(講義)

日時 平成21年8月8日(土) 午後1:00~2:30

講師 会下和宏(鳥根大学ミュージアム副館長・准教授)

・第15回「山陰の化石群からわかる1600万年前~1200万年前の地球環境変動 -温暖期から寒冷期へ-」(講義)

日時 平成21年9月19日(土) 午後1:00~2:30

講師 瀬戸浩二(鳥根大学汽水域研究センター准教授)

・第16回「中海・宍道湖の底質環境と地球環境・地球資源」(講義)

日時 平成21年10月10日(土) 午後1:00~2:30

講師 三瓶良和(鳥根大学総合理工学部教授・鳥根大学ミュージアム兼任研究員)

■平成21年度・第2ステージ「続・鳥根温故知新-江戸~平成のひと・まち・なりわい-」

主催 鳥根大学ミュージアム・鳥根大学「歴史・文化資源を活かした地域まるごとミュージアム化実践プロジェクト」

共催 鳥根大学生涯学習教育研究センター

場所 鳥根大学旧奥谷宿舎・1階多目的室(松江市奥谷町)

趣旨

本講座は、好評だった平成20年度市民講座第2ステージ「鳥根温故知新」の続編。江戸時代から現代までの鳥根の「ひと・まち・なりわい」について、歴史・文学・まちづくり政策を専門に研究している講師陣に講義してもらう。「温故知新」をテーマに、過去の歴史を学ぶだけでなく、それを通して21世紀の鳥根を展望するきっかけにしよう。

・第17回「岸崎佐久次と出雲国風土記」

日時 平成21年11月14日(土) 午後1:00~2:30

講師 大日方克己(鳥根大学法文学部教授)

・第18回「鳥根県における明治時代の漢詩」

日時 平成21年12月12日(土) 午後1:00~2:30

講師 要木純一(鳥根大学法文学部教授)

・第19回「松江白潟天神絵図のデジタル化と土地利用の復元」

日時 平成22年1月23日(土) 午後1:00~2:30

講師 作野広和(鳥根大学教育学部准教授)

・第20回「松江のまちの移り変わり~大橋川周辺を中心に」

日時 平成22年2月20日(土) 午後1:00~2:30

講師 飯野公央(鳥根大学法文学部准教授)

・第21回「明治の博覧会と『出雲石見魚漁図解』」

日時 平成22年3月6日(土) 午後1:00~2:30

講師 伊藤康宏(鳥根大学生物資源科学部教授)



第13回市民講座「松江平野の土地条件と水害」
(21.7.11)



第17回市民講座「岸崎佐久次と出雲国風土記」
(21.11.14)

第1ステージは、アクセスの利便性が良い松江市市民活動センター・スティックビルを会場にして行ったため、毎回30～50名の受講者で推移した。第2ステージは、会場を鳥根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町）に移して開催したが、スペースの制約から1回20名までに人数制限せざるを得なかった。平成22年度は、より多くの方々に聴講してもらうため、会場について再検討したいと考えている。

②フィールド体験ツアー（鳥根大学公開講座）

■第4回鳥根まるごとミュージアム体験ツアー「松江城下町を歩く」

日時 第1回：平成21年4月4日（土） 10：00～12：00

第2回：平成21年4月11日（土） 10：00～12：00

講師 会下和宏（鳥根大学ミュージアム准教授）

内容

江戸・近代・現代の地図が収録された松江散策マップ『松江温故知新（橋北版）』『同（橋南版）』を片手に、松江城下町に残る社寺、道、橋、近代洋風建築等を散策する。実際に現地を訪れることによって城下町の構造を体感し、近世～近代の松江の「ひと・まち・なりわい」が現代にも息づいていることを学んでもらう。体力づくりも兼ねて、1回に2時間程度、ゆっくり歩く。

第1回：橋北地区界隈を散策（明々庵・千手院・石橋町界隈・鳥根大学旧奥谷宿舎・田原神社・桐岳寺・亀田橋ほか）

第2回：橋南地区界隈を散策（出雲ビル・善導寺・長満寺・久成寺・龍昌寺・常教寺・人參方・如泥石の護岸・小林如泥家跡ほか）

受講登録者数は29名。地元在住の参加者も知らないスポットを歩いて散策することができ、松江城下町の歴史的な魅力・伝統を改めて学ぶことができたということで、大変好評だった。

■第5回鳥根まるごとミュージアム体験ツアー「商工業の町・松江市石橋町の酒蔵・醤油蔵をめぐる」

共催 李白酒造有限公司・カネモリ醤油（森山勇助商店）

日時 第1回：平成21年11月28日（土） 10：00～12：00

第2回：平成21年12月5日（土） 10：00～12：00

講師 会下和宏（鳥根大学ミュージアム准教授）

内容

松江市石橋町は、松江のなかでも良質な水が豊富に湧くことから、江戸・明治時代以来、酒屋や醤油屋等が店を構えてきた。今回の体験ツアーでは、鳥根大学旧奥谷宿舎の近くにある酒蔵や醤油蔵の内部を見学して、実際の酒造り、醤油造りの様子について学んでもらう。

第1回：鳥根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町）を出発し、松江市石橋町の名所旧跡を見学しながら1882（明治15）年創業・李白酒造へ移動。その後、李白酒造にて日本酒の醸造工程等について講義を受けた後、酒蔵内部を見学。

第2回：1875（明治8）年創業、蔵元カネモリ醤油の醤油蔵内部を見学し、醤油の醸造工程について学ぶ。

受講登録者は26名。募集開始後、すぐに申込みが殺到し、関心の高さが窺えた。普段見学することができない老舗の酒蔵・醤油蔵を見学することができ、貴重な体験になったといった感想をいただいた。

③親子で学ぶ子どもミュージアム体験教室（小学生向け企画）

■夏休み子どもミュージアム体験教室「川健康診断をしよう！」(雨天のため中止)

日時 平成21年7月25日(土) 10:00~11:30

場所 意字川ふれあいの水辺（松江市八雲町日吉 サニーハイツ団地前）

後援 松江市教育委員会

対象 小学生（3年生以上）とその親 15組

講師 田中秀典（特定非営利活動法人 自然と人間環境研究機構、鳥根大学汽水域研究センター協力研究員）

内容

①親子で川にはいり、石の下や水草の中にいる生き物を採取し、種類を調べる。②検査道具（透視度計、CODパックテスト）を使って、川の水質を調べる。①②の調査によって身近な河川の水質環境について学び考える。

参加登録者は親子16名（7組）。梅雨明けが例年より遅れ、当日は雨天のため、安全を考慮して開催中止とした。今回は諸般の事情で7月下旬の開催予定としたが、これを教訓に水辺でのフィールドワークの場合は、開催日程を8月にずらすよう対処したい。

■冬季子どもミュージアム体験教室「クリスマスを通じてドイツ文化を体験しよう！」

主催 鳥根大学ミュージアム・鳥根大学外国語教育センター

日時 平成21年12月12日(土) 10:00~11:30

場所 鳥根大学旧奥谷宿舎・1階多目的室（松江市奥谷町）

対象 小学生（3年生以上）とその親7組

講師 ローランド・シュルツ Roland Schulz（鳥根大学外国語教育センター特別嘱託講師）

ピアンカ・ブルーメ Bianka Blume（トリア大学留学生）

カーリーナ・ラウアー Carina Lauer（トリア大学留学生）

クリストフ・シュターデルマン Christoph Stadelmann（トリア大学留学生）

大藪正彦（鳥根大学外国語教育センター准教授）

内容

かつてドイツ人教師が暮らした鳥根大学旧奥谷宿舎を会場に、ドイツ人留学生らと一緒にドイツ風クリスマスの準備を通して異文化交流を体験する。主な内容は、スライドによるドイツのクリスマス紹介、クリスマスツリーの飾り付け、アドベントカレンダーの作成等。

参加申込みが定員を超えたため抽選した。当日は1組欠席し、参加者は12名（6組）。

■春休み子どもミュージアム体験教室「春を探してみよう！」

日時 平成22年3月27日(土) 10:00~11:30

場所 鳥根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町）界限

対象 小学生（3年生以上）とその親

講師 杵村喜則（元鳥根大学生物資源科学部助教授）

内容

鳥根大学旧奥谷宿舎をスタートして、松江市奥谷町の春の草花や木を観察するフィールドワーク。身近な草花を観察し学ぶことによって、春の訪れを体感する。

参加者は22名（9組）。

④特別講演会

■島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）修復完成記念特別講演会（オープニングイベント）「松江の宝・島根大学旧奥谷宿舎への想いーカルシュの足跡と残した偉業ー」

後援 松江開府400年祭推進協議会

日時 平成21年10月20日（火） 午後5時30分～7時

場所 城北公民館第1・2研修室（松江市北堀町43）

講師 若松秀俊（東京医科歯科大学大学院教授）

内容

講師の若松秀俊教授は、島根大学旧奥谷宿舎に暮らした旧制松江高等学校ドイツ語教師、フリッツ・カルシュ博士について永年にわたって孤軍奮闘で調査されてきた。講演会では、島根大学旧奥谷宿舎の修復完成を記念して、カルシュ博士の業績等について、これまでの調査の思い出等を交えながら話していただいた。

参加者は、30名。



特別講演会「松江の宝・島根大学旧奥谷宿舎への想い」(21.10.20)



「第5回島根まるごとミュージアム体験ツアー」で松江市石橋町の醤油蔵（明治初期築）見学（21.12.5）

（6）講義（島大ミュージアム学）

後期に特別講義「島大ミュージアム学」を公開授業で実施した。概要は以下の通り。

授業科目名 「島大ミュージアム学～島根大学と島根県の自然・歴史・ひと・文化～」

授業の目的 島根大学で学ぶ学生は、県内外の出身地を問わず、島根県の自然・歴史・文化や本学の学校史、顕著な業績をあげた教官・卒業生等についての知識が希薄であるように見受けられる。そこで本授業では、「ミュージアム」「フィールド」「モノ」をキーワードにして、島根県の自然・歴史・文化や島根大学の学校史・著名人（自校教育）等の基礎的事項について、学際的に学ぶものとする。あわせて、公開授業として地域市民にも聴講してもらう。

達成目標 島根県・島根大学について、広い基礎知識を得てもらうようにする。本授業を通して、学生や地域市民のなかに、島根県や本学に対する誇り・愛着が醸成されることを期待する。

科目 共通教養科目・選択

対象 1年次、市民

単位数 2単位

曜日・時間 金曜日・2コマ目（10：15～11：45）

担当教員

会下和宏（島根大学ミュージアム准教授）、小泉 凡（島根県立大学短期大学部教授）

杵村喜則（島根大学元助教授）、松尾 寿（島根大学名誉教授）

受講登録者数は、学生237名、一般市民1名である。平成20年度、受講希望者が350名以上を超えたため、授業の遂行上、受講者選抜をせざるをえなかったことから、平成21年度は、開講して4年目でもあり、1年生のみに受講対象学年を限定した。

平成21年度は、第5回に修復工事を終えた島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町）やその周辺を散策し、歴史的な町の風景の価値を理解させ、これらの保護、今後の発展のあり方について考え

講義内容

日程	講義内容	講師
10月2日(金)	1. 島大ミュージアム学ガイダンス/大学ミュージアムとは	会下和宏
10月16日(金)	2. 発掘調査でわかった出雲地域の古環境	会下和宏
10月23日(金)	3. 島根県の自然-植生を中心に-	杵村喜則
10月30日(金)	4. 島根大学所蔵コレクション概説-学内の展示施設見学-	会下和宏
11月6日(金)	5. 歴史環境のなかの島大キャンパス-島根大学旧奥谷宿舎周辺を歩く-	会下和宏
11月13日(金)	6. 島根大学(松江キャンパス)周辺の遺跡・史跡	会下和宏
11月20日(金)	7. 島根大学(出雲キャンパス)周辺の遺跡・史跡	会下和宏
11月27日(金)	8. 島根県の歴史・偉人	会下和宏
12月4日(金)	9. 島根大学史と島根県の近代高等教育-島大の前身校から国立島根大学まで-	会下和宏
12月11日(金)	10. 文化資源としての小泉八雲	小泉 凡
12月18日(金)	11. 城下町松江の誕生と町の構造	松尾 寿
1月8日(金)	12. 島根大学の著名人	会下和宏
1月22日(金)	13. 島根大学の著名人Ⅱ	会下和宏
1月29日(金)	14. まとめ/未来の島根県・島根大学を考える	会下和宏
2月5日(金)	15. 期末試験(選択問題100問出題)	-

させることをねらいにした授業を実施した。開講4年目を終えて、やや内容が硬直化してきたきらいもあるため、次年度はさらに新しい研究成果を交えた教育プログラムを開発していきたいと考えている。

4 博物館学教育

従来、学芸員資格取得に関する科目の開講や博物館実習の段取りは、各学部が個別に実施していたが、今年度から卒業単位とは無関係の科目については、ミュージアムにおいて一元的に開講することとなった。

今年度、ミュージアムが開講した科目は以下の通り。

博物館法施行規則に定める科目及び単位		法文学部学生	生物資源科学部学生	総合理工学部学生
科目	単位			
博物館概論	2	博物館概論(前期・会下和宏)	博物館概論(前期・*高安克己・石田秀樹・高島育雄・宮永龍一)	
博物館資料論	2	博物館資料論(前期・会下和宏)	博物館学各論Ⅰ(後期・*福岡孝)	
博物館経営論	1	博物館経営論(後期・会下和宏)	博物館学各論Ⅱ(前期・*福岡孝)	
博物館情報論	1	博物館情報論(後期・会下和宏)		
博物館実習	3	博物館実習(前期・1単位・会下和宏)	博物館実習(後期・1単位・石田秀樹・高島育雄・宮永龍一)	博物館実習(後期・1単位・会下和宏)
		博物館実習に係る事前および事後指導(1単位・会下和宏)	博物館実習に係る事前および事後指導(後期・1単位・石田秀樹)	博物館実習に係る事前および事後指導(後期・1単位・会下和宏)
		考古学実習Ⅲ(前後期・各1単位・会下和宏)		

- ・*印は非常勤講師。
- ・学芸員資格取得のためには、その他、教職科目・専門科目等の単位が必要。
- ・博物館実習の実施自体は、基本的には、学外の各博物館に依頼。

なお、博物館法施行規則の一部改正によって、平成24年度から学芸員資格取得に必要な単位数が大幅に増加されることになっているため、平成22年度中には、その対応について検討する必要がある。

5 標本資料類等に関わる情報発信、地域貢献

(1) 刊行物の発行・配布

- 下記の既刊・新刊刊行物を印刷し、学内や学外関係諸機関、学校、県内観光施設等に配布した。
- ・携帯用パンフレット『島根大学ミュージアム』…ミュージアム展示を紹介。(A4サイズ・3つ折、平成18年度発行)
 - ・携帯用パンフレット『いにしへのまちめぐり・松江温故知新(橋北版)』…松江旧市街(橋北地域)にある歴史・文化資源を江戸時代・昭和時代・現代の各地図にマッピングして解説。(平成19年度発行)
 - ・携帯用パンフレット『いにしへのまちめぐり・松江温故知新(橋南版)』…松江旧市街(橋南地域)にある歴史・文化資源を江戸時代・昭和時代・現代の各地図にマッピングして解説。(島根大学萌芽研究プロジェクトの一環でミュージアム教員が制作。平成20年度発行)
 - ・パンフレット『島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)』(A4版、平成21年度発行)
 - ・携帯用パンフレット『島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)』(A4サイズ・3つ折、平成21年度発行)

(2) インターネット

島根大学ミュージアムのホームページ(<http://museum.shimane-u.ac.jp/>)を随時更新した。
また、松江版地域SNS運営協議会による「まつえSNS(<http://matsuesns.jp/>)」に参加して、ブログ機能等で活動日誌、イベント案内・報告等の情報発信を行った。

(3) データベース

島根県遺跡データベース(平成15年度地域貢献事業によって島根大学地域貢献協議会が制作、<http://iseki.shimane-u.ac.jp/>)に島根県内の遺跡データ(遺跡・遺構・遺物・調査・文献データ)を登録した。データは、平成20・21年度刊行発掘調査報告書等掲載の情報を整理して収載した。

(4) 地域貢献活動

「3 標本資料類等に関わる教育、普及啓発」で前述した「(4) 展示案内・キャンパスツアー等」「(5) 公開講座等」は、主に地域市民が対象であることから、地域貢献活動にも含まれる。

6 本学構内の埋蔵文化財の取扱い

(1) 島根大学ホール新営工事に伴う試掘調査・確認調査

- ① 調査場所 島根県松江市西川津町1060(旧字名：菅田)(教養講義棟2号館の東隣)
- ② 調査機関 島根大学ミュージアム
- ③ 調査原因 島根大学ホール新営工事に伴う埋蔵文化財の確認
- ④ 調査面積 約6m²×2箇所
- ⑤ 調査期間 平成21年4月27日
- ⑥ 調査目的

教養講義棟1号館100番教室(通称階段教室)を解体し、新たに島根大学ホールを建設する工事に伴って予定地における埋蔵文化財の有無、内容を確認するために実施。調査区は、「菅田」丘陵の尾根部分に相当しているが、1920(大正9)年5月～翌年3月に行われた旧制松江高等学校敷地造成工事によって、既に基盤層が削平を受けている可能性が高いため、遺物包含層・遺構

有無の確認を主な目的とした。

⑦調査成果

調査経過

平成21年4月27日 トレンチ掘削。基盤層確認。写真撮影。北壁断面図作成。

4月27日 ミュージアム埋蔵文化財専門委員による現地検討会（ミュージアム埋蔵文化財専門委員会）開催。

基本層序・遺物

約0.6～1.1mが近現代盛土。その下位は基盤層（松江層）。遺物なし。

⑧特記事項

調査の結果、現地表面より約0.6～1.1m下位で基盤層（松江層）が検出された。基盤層上部が土壌化していないことや、周辺地形も改変を受けていること等から、当初の予想通り、開発工事予定範囲は、旧制松江高等学校敷地造成工事の際、削平を受けていることが明確となった。したがって今回の開発工事に際しては、「慎重工事」で対応することになった。

（2）島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査（ヘリポート・格納庫建設予定地）

①調査場所 島根県出雲市塩冶町89-1（図2）

②調査機関 島根大学ミュージアム

③調査原因 ヘリポート・格納庫建設工事に伴う埋蔵文化財の確認

④調査面積 約100m²

⑤調査期間 平成21年7月13日～16日

⑥調査目的

ヘリポート・格納庫建設予定地における埋蔵文化財の有無、遺構・遺物包含層の量等を確認し、その後の対応を決定する材料にするため。

⑦調査成果

調査経過

平成21年7月13日 現代盛土の重機掘削。

7月14日 第1層、第2層掘り下げ、北壁断面写真撮影。

7月15日 北壁断面図作成。

7月16日 現地検討会（島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会）開催。

7月16日 第2d層掘り下げ。調査終了。

基本層序・遺物（図3）

層名	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
現代盛土		+6.9～+9.8		昭和
第1層	黒褐色泥土 (大学造成前水田)	(+6.7～6.8)～+6.9	陶磁器・須恵器(奈良)	近世?～近代
第2a層	灰色シルト	+6.5～(+6.7～6.8)	なし	不明
第2b層	灰オリーブ色シルト	(+6.2～6.3)～+6.5	なし	不明
第2c層	暗青灰色シルト	～6.3～(+6.2～6.3)	なし	不明
第2d層	灰色粗砂	～6.3	三瓶山デイサイト (約3600y.BP)	縄文後期か?

⑧特記事項

調査の結果、南西約70mの医学部会館保育所増設予定地で実施した試掘調査と同様に（会下2009）、近現代水田耕作土である第1層より下位の第2層は、主として神戸川の沖積活動による堆積であることが判明した。第2d層からは、縄文後期に比定される三瓶山起源のデイサイトが出土している。調査区は縄文後期以来、神戸川の氾濫原の環境にあったことが想定できる。

以上の堆積環境や第2層において遺物の出土がみられないことから、開発区域において埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いことが想定された。したがって今回の開発工事に際しては、

「慎重工事」で対応することになった。

参考文献

会下和宏 2009「鳥根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査（医学部会館保育所増設予定地）」『鳥根大学ミュージアム年報 平成20年度』鳥根大学ミュージアム

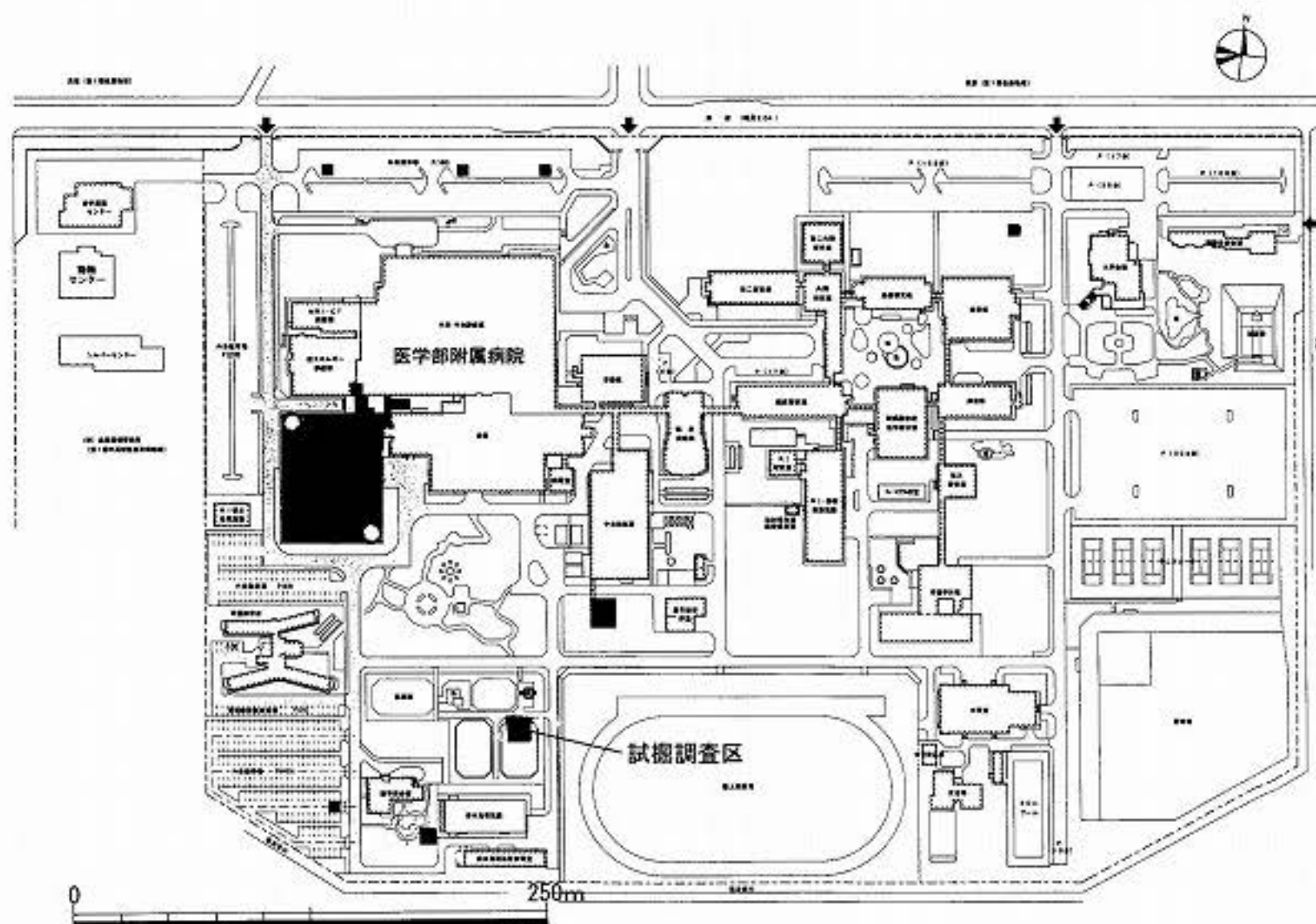


図2 鳥根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査位置図 (1/5,000)

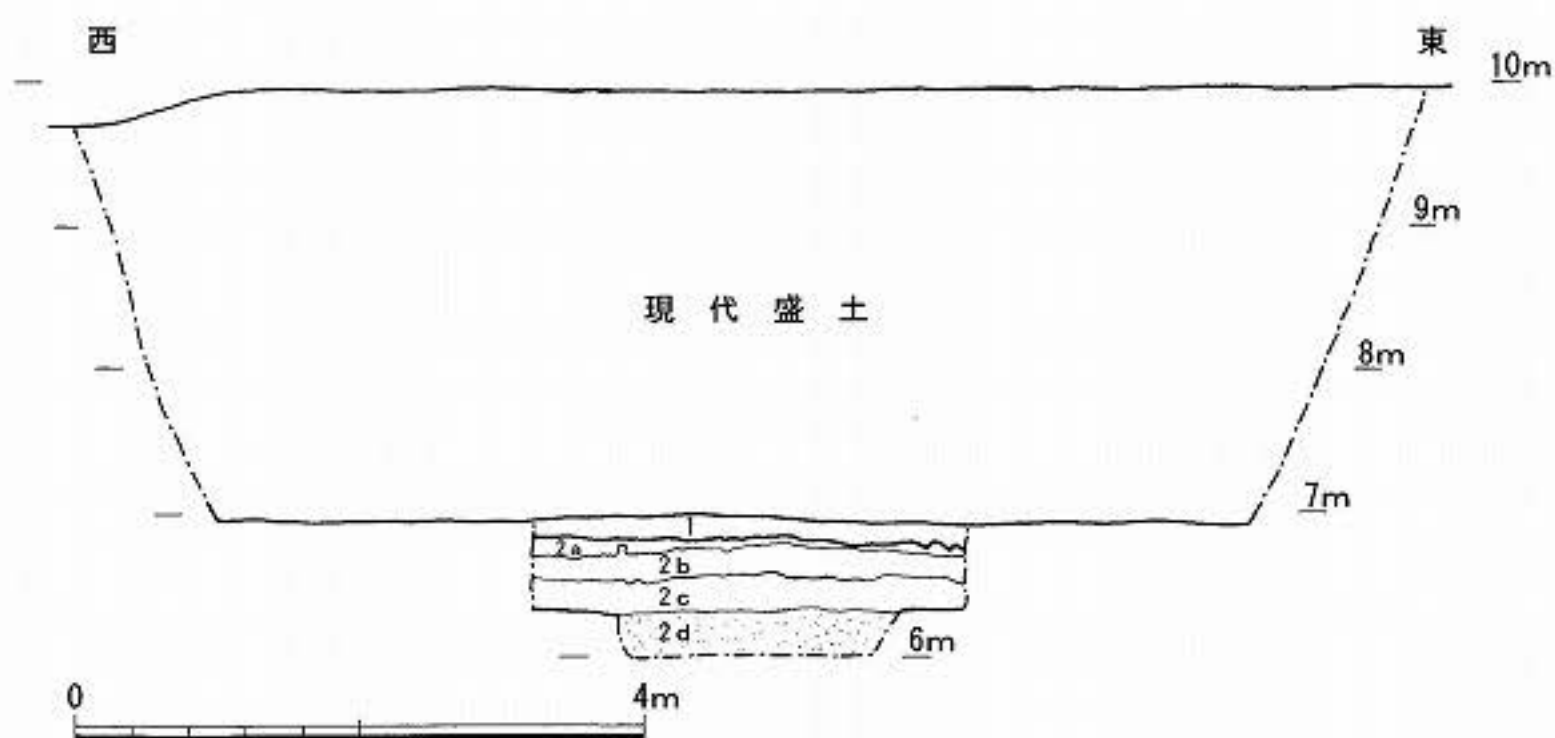


図3 鳥根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査区 断面図 (1/80)

(3) 島根大学構内遺跡第18次発掘調査(橋縄手地区4)

- ①調査場所 島根県松江市西川津町1060(旧字名:橋縄手、図4)
 ②調査名 島根大学構内遺跡第18次調査(橋縄手地区4)
 ③調査略号 09S-18
 ④調査主体 島根大学ミュージアム
 ⑤調査原因 AU携帯電話アンテナ新営工事
 ⑥調査面積 11.78m×11.78m=約139m²
 ⑦調査期間 平成21年10月26日～11月25日
 ⑧調査成果

調査経過

平成21年10月26日～30日 現代盛土重機掘削

11月4日～5日 第1層掘り下げ

11月6日～9日 第2層掘り下げ

11月10日 第3層掘り下げ

11月12日 第4層掘り下げ

11月12日～18日 第5層掘り下げ

11月18日 東壁断面図作成

11月19日 現地検討会(島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会)開催。

11月19日 第4c層中流木出土状態写真撮影

11月20日 完掘状態写真撮影、北・東壁断面写真撮影

11月23日 北壁断面図作成・土壌サンプル採取

11月24日 調査指導(松江市教育委員会、島根県教育委員会)開催。

11月25日 補足調査

基本層序・遺物

層位遺構	層相	標高(m)	遺物	堆積時期
第1層	しまったオリーブ黒色粘土(近現代水田耕作土)	+1.7～+1.8	陶磁器、須恵器等	近代
第2層	しまった灰色粘土	(+1.4～+1.5)～+1.7	須恵器	古墳～奈良?
第3a層	しまった灰色粘土	(+1.3～+1.5)～(+1.4～+1.5)	なし	
第3b層	しまった黒褐色色粘土	(+1.2～+1.3)～(+1.3～+1.5)	なし	
第4層	暗灰黄色シルトと灰黄色細砂の互層	(+1.0～+1.1)～(+1.2～+1.3)	なし	
第5層	オリーブ黒色シルト・暗緑灰色シルト(海成層)	(+0.2～+0.4)～(+1.0～+1.1)	縄文土器・材・自然礫	縄文海進期(縄文前期～)
第6層	基盤層(松江層)	～(+0.2～+0.4)		新第三紀 中期中新世

⑨特記事項

- ・海蝕台状の平坦な地形の基盤層(松江層)や縄文海進期の海成層等を検出し、構内北部の旧地形・古環境を復元する手がかりが得られた。
- ・縄文土器、焦痕のある材等が出土し、縄文時代の水辺での人間活動を知る一資料となった。

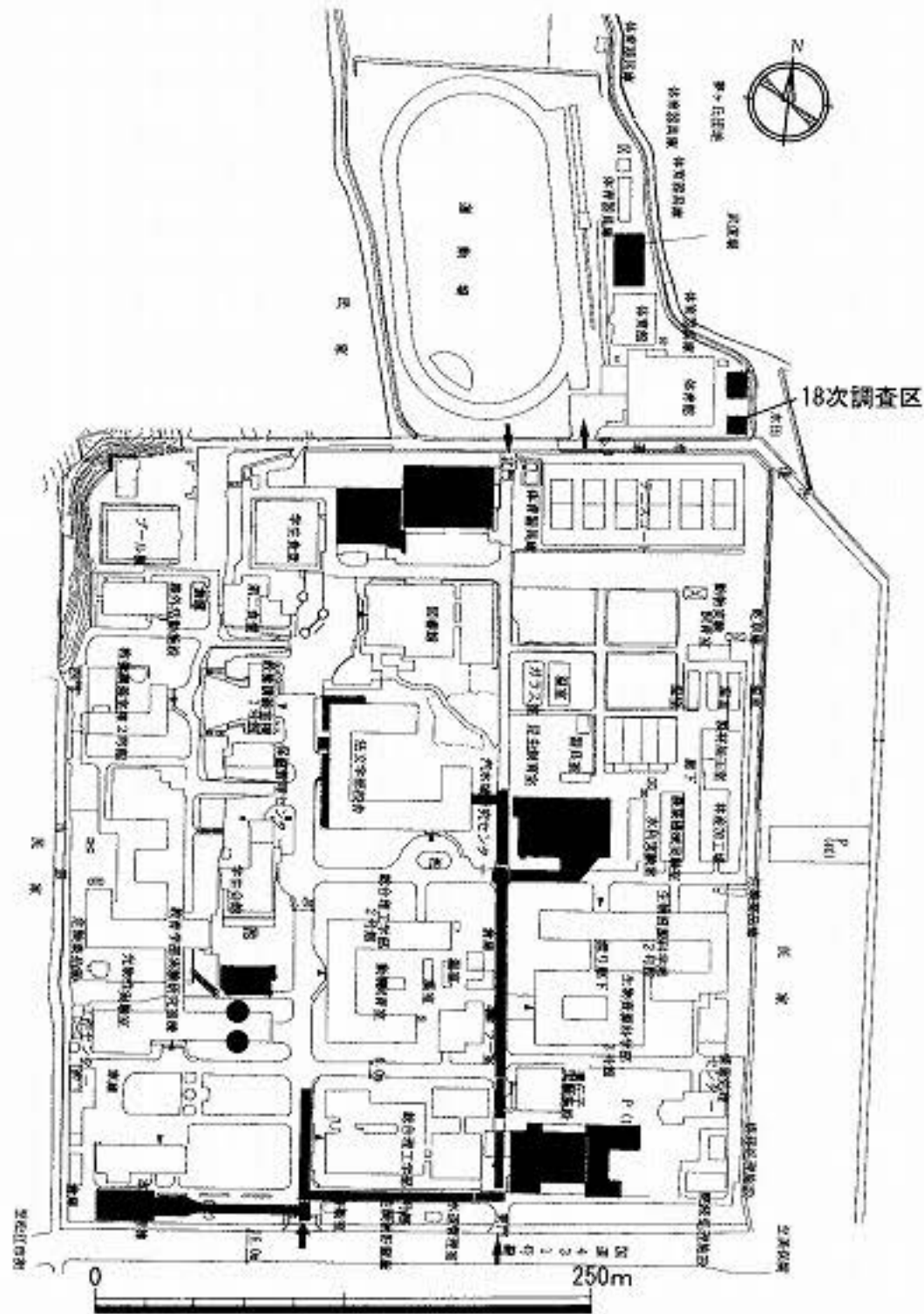


図4 島根大学構内遺跡第18次調査位置図 (1 / 5,000)

(4) 工事立会

総合研究棟中庭のベンチ設置工事、教育学部棟東側階段設置工事、松江キャンパス野外照明設置工事等に際し、工事範囲が狭小で、深度も近現代盛土の範囲内に留まり、地下の埋蔵文化財に影響がないことから、工事立会で対応した。

平成22年2月から3月にかけて逐次、立会した結果、いずれも近現代盛土の範囲内に留まる工事、あるいは既に過去の工事で削平された場所であったこと等から、埋蔵文化財への影響がないことを確認した。

(5) 島根大学構内遺跡第14・15・16・17・18次発掘調査、島根大学出雲キャンパス構内遺跡試掘調査の整理・研究

上記調査のほか、平成17年度実施の島根大学構内遺跡第14次調査（ボーダフォン株式会社携帯電話アンテナ設置工事に伴う発掘調査）、平成18年度実施の同遺跡第15次調査、平成19年度実施の同遺跡第16次調査、平成20年度実施の同遺跡第17次調査等の出土遺物の洗浄・実測・トレース、遺構図面トレースといった室内整理作業を進めた。

7 鳥根大学旧奥谷宿舎の活用

(1) 鳥根大学旧奥谷宿舎の修復工事

①修復工事までの経緯

平成18年度、松江市奥谷町に所在する旧制松江高等学校に關係する唯一の建築物「鳥根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）」が、歴史的・建築学的価値をもち、地域住民の強い保存要望もあったことから、修復・活用されていく方針になった。これをうけて、宿舎の保存活用策の検討をミュージアムが担当することになり、ミュージアム普及啓発専門委員会の下にワーキンググループが設置され、修復活用するために必要な基礎調査や普及啓発活動を実施した。

平成19年10月からは、この事業に対して、学外有識者の協力も得ながら、より全学的に取り組むべく、「旧奥谷宿舎修復活用事業準備委員会」が設置され、ミュージアム専任教員・兼任研究員・管理運営委員等も加わった委員によって、保存修復に関わる諸活動が遂行された。ミュージアムでは、当委員会と協力しつつ実務レベルで宿舎の建築・居住者に関する調査研究や普及啓発活動等を実施した。この間の経緯、諸活動については、「鳥根大学ミュージアム年報（平成18年度）」『同（平成19年度）」『同（平成20年度）」に記録している。

宿舎は、平成21年秋までに建造当初の外観にできるだけ近づけて修復補強工事を完了し、サテライトミュージアム、サテライト教室、市民の交流拠点として活用されていくことが正式決定された。

②修復工事

ミュージアムでは、設計段階から工事完了まで本学施設整備課と連携・協議して、これまでの建物に関する調査成果に基づいて、適宜、修復復元のアドバイスを行った。

修復工事の基本方針は、現在の耐震構造基準に見合うよう補強したうえで、1924（大正13）年建造当初の外観に出来るだけ近づけて復元することとした。

戦前、宿舎に居住したフリッツ・カルシュ博士の長女メヒテルト氏（米国テネシー州在住）への聞き取り調査、同氏および若松秀俊氏（東京医科歯科大学大学院教授）提供の戦前の古写真、鳥根大学所蔵の建物設計図等をもとに、戦後改変を受けたトタン屋根を瓦葺きに戻したり、玄関廻りを当初の状況に戻したりした。また、建物外観や建物内部のうち不明な箇所は現状を修復するに留めた。建物内部の柱、床、壁、天井の色等も聞き取り調査を基に可能な範囲で戦前の状況に復元したが、改変され不明になった部屋の間取り等については、現状を維持するに留めた。

建物西側柱材の一部や建物北壁以外の1階外壁板材等、損傷が激しい箇所は新たな部材に差し替える等したが、修復前の窓ガラスや建築部材で使えるものは、可能な限り再利用した。

また、昭和27年頃までは残っていたことが確実な来待石製の門柱は、古写真をもとに当時のデザインで復元した。

修復工事は、平成21年6月から開始され、同年10月に予定通り終了した。

③松江市との連携

鳥根大学旧奥谷宿舎が、「まち歩き観光」や「観光客及び地域住民の交流」の拠点施設として地域振興や観光振興に寄与できることから、平成21年8月31日、鳥根大学と松江市とで「鳥根大学旧奥谷宿舎の活用に関する協定書」を取り交わした。

この協定を経て、鳥根大学旧奥谷宿舎の庭園・外構整備、観光案内板、ベンチ等について、松江市の負担で整備していただいた。

(2) 鳥根大学旧奥谷宿舎修復工事竣工記念式典

日時 平成21年10月21日（水） 10:00～11:00

会場 鳥根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町）

内容

式次第は以下の通り。

- 1) 学長挨拶（山本廣基鳥根大学長）

- 2) 来賓祝辞（松浦正敬松江市長）
- 3) テープカット（山本廣基鳥根大学長・柴田均鳥根大学理事・江口博晴鳥根大学理事・松浦正敬松江市長・三島進松江市議会議長・金築修旧制松江高等学校同窓会長）
- 4) 建物紹介、工事概要紹介
- 5) 内部公開、展示案内

当日は、爽やかな秋晴れの中、山本廣基学長からの挨拶および、松浦正敬松江市長からのお祝いの言葉をいただき、学外来賓者・学内関係者約40名と共に完成を祝った。また、新聞・テレビ各局によって大きく報道もなされ、広く市民一般に周知をはかることができた。



山本学長の挨拶



松浦松江市長よりご祝辞をいただく



テープカット



中国新聞紹介記事（21. 10. 22朝刊）

（3）鳥根大学旧奥谷宿舎の活用状況

鳥根大学ミュージアムでは、新たに鳥根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会を設置して、鳥根大学旧奥谷宿舎の利活用について検討する体制を整えた。

開館日時は、土・日・祝休日・午前10時～午後5時を原則としている。鳥根大学の学芸員資格取得を目指している学生を雇用し、ローテーションで常駐させて、実践教育も兼ねながら、開閉館、来館者対応等の業務にあたってもらった。

活用状況は、下記の通り。鳥根大学ミュージアム主催の催しものの詳細や入館者数は、「Ⅱ-3 標本資料類等に関わる教育、普及啓発」を参照のこと。

①展示活動

- ・平成21年10月24日（土）～：「写真が語る鳥根大学の歴史と旧奥谷宿舎」（常設展示）
- ・平成21年10月24日（土）～11月29日（日）：企画展示「松江温故知新 江戸～平成のひと・まち・なりわい」（鳥根大学萌芽研究プロジェクト・鳥根大学ミュージアム主催）
- ・平成22年2月20日（土）・21日（日）・27日（土）・28日（日）：企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育－足立文庫の資料を中心として－」（鳥根大学萌芽研究プロジェクト・鳥根大学附

属図書館・島根大学ミュージアム主催)

- ・平成22年3月6日(土)～3月22日(月祝):「奥谷タイムトンネル2ー古くて新しい島根をさがしにー」(どこでもミュージアム研究所・島根大学ミュージアム共催)

②ミュージアム市民講座・公開講座・子どもミュージアム体験教室等

- ・平成21年11月14日(土):第17回ミュージアム市民講座「岸崎佐久次と出雲国風土記」
- ・平成21年11月28日(土):島根大学公開講座・第5回島根まるごとミュージアム体験ツアー「商工業の町・松江市石橋町の酒蔵・醤油蔵をめぐる」(第1回)
- ・平成21年12月5日(土):島根大学公開講座・第5回島根まるごとミュージアム体験ツアー「商工業の町・松江市石橋町の酒蔵・醤油蔵をめぐる」(第2回)
- ・平成21年12月12日(土):冬季・子どもミュージアム体験教室「クリスマスを通じてドイツ文化を体験しよう」(島根大学外国語教育センター・島根大学ミュージアム主催)
- ・平成21年12月12日(土):第18回ミュージアム市民講座「島根県における明治時代の漢詩」
- ・平成22年1月23日(土):第19回ミュージアム市民講座「松江白湯天神絵図のデジタル化と土地利用の復元」
- ・平成22年2月20日(土):第20回ミュージアム市民講座「松江のまちの移り変わり～大橋川周辺を中心に」
- ・平成22年3月6日(土):第21回ミュージアム市民講座「明治の博覧会と『出雲石見魚漁図解』」
- ・平成22年3月27日(土):春休み・子どもミュージアム体験教室「春をさがしてみよう！」

③授業

- ・平成21年10月24日(土):博物館実習に係る事前及び事後の指導(島根大学法文学部学生向け)
- ・平成21年11月6日(金):島大ミュージアム学(島根大学ミュージアム開講)
- ・平成21年11月7日(土):地域共生学(島根大学教育学部開講)
- ・平成21年11月14日(土):地域共生学(島根大学教育学部開講)
- ・平成21年11月21日(土):地域共生学(島根大学教育学部開講)
- ・平成21年12月25日(金):博物館実習に係る事前及び事後の指導(島根大学生物資源科学部学生向け)

④裏庭を活用した園芸活動(生物資源科学部主催「みのりの小道」)

- ・平成21年11月11日(水):宿舎裏庭に植える植物の検討、土壌pH値測定。
- ・平成22年1月13日(水):ハーブティの話、干し柿等についての勉強会。
- ・平成22年3月6日(土):ブルーベリー、ジャガイモ、ムギ等の植付け。

⑤団体見学・町歩きイベント

- ・平成21年10月21日(水):地元住民の方々向け建物見学会
- ・平成21年11月21日(土):山陰インテリアコーディネーター協会研修会(山陰インテリアコーディネーター協会主催)
- ・平成21年11月21日(土):建築士と歩くまちなみ・たてもの探検ツアー(島根県・NPO まつえまちづくり塾主催)
- ・平成22年3月6日(土)、3月7日(日):まつえ城北探検ツアー(NPO まつえまちづくり塾主催)

⑥学外団体等との共催イベント

■どこでもミュージアム研究所・島根大学ミュージアム共催「奥谷タイムトンネル2ー古くて新しい島根をさがしにー」

主催 どこでもミュージアム研究所・島根大学ミュージアム

日時 平成22年3月6日(土)～23日(月祝)の土日祝日

会場 島根大学旧奥谷宿舎・スタジオ カナ

主なイベント

- ・「小学生が描いた100年後の奥谷町」絵画作品展示
- ・「どこでも図書室（アーティストの本棚）」
- ・シンポジウム「街やアートについて話そう！」
- ・地元アーティストの作品展+ギャラリートーク
- ・造形ワークショップ「自分の身体の一部をコピーしよう」

(4) 島根大学旧奥谷宿舎見学者アンケートの結果

- ・松江は非常に落ち着いた感じがし、行きかう人たちも品のある親切な人が多いと思いました。奥谷宿舎が復旧し、多くの人々の交流がなされることを祈っています。大切に施設を守っていききたいものですね。
- ・リーフレット『松江・温故知新』シリーズ、ゆっくり読ませて頂きます。
- ・落ち着いた雰囲気、とても住みやすそうな印象を受けました。
- ・奥谷町に実家があり、時々来ていますので、見させて頂きました。
- ・今でも住める可愛い家だなと思いました。
- ・保存には大変費用がかかると思います。よくここまで修復されました事、お喜び申し上げます。
- ・あまりにも新しくなってびっくり。せめて人の交流だけでも古い者も参加できますように。
- ・以前古いままの頃（20年前）、洋館の素敵な家だと日頃から憧れていました。どなたか住んでいらっしゃって、犬（ボクサー）が飼ってありました。本日、部屋に上がることができ、感慨深いです。松江の新しい観光名所になると良いなとも思います。
- ・修復されて残された事は素晴らしいと思います。
- ・2階の古い写真と地図が面白かった。
- ・改修されてよかったと思います。展示資料とよくマッチしています。
- ・大学当局の熱意ある働きかけによって、貴重な建物施設の復元がはかられ、市民としても市にとっても、誠に有り難いことと深く感謝しています。
- ・改修前からずっと気になる建物でした。色んな利用方法があると思いますが、こんな風に歴史や文化を伝える施設になって素敵なことだと思います。保存活動の継続は、御苦労も多々かと思いますが、応援しています。
- ・戦中戦後、この宿舎に居住された、藤野・岡村(ドイツ語)先生の息子さん・娘さんをよく知っています。この人たちの資料もあればと思いますが。
- ・新制島大25年入学・29年卒（2期生）。学生時代より、当宿舎の前の道路から見て知っていました。改造され、嬉しく思います。良い名所となりました。
- ・痛むにまかせていた建物が生き返ったような状態となりました。保存をして手を入れられるまで熱心に働かれた方々があつてのこと。感謝したいですね。今岡額縁店が見出した写真も展示されている。良い生かし方で密かに喜んでおります。住宅地の一角にこうした形で学際的な雰囲気がある。嬉しいこととなりました。
- ・いつ来ても心が落ち着きます。
- ・素晴らしい建物で、長く保存頂きたい。
- ・以前から、一度伺いたいと思っておりました。今日、やっと参りました。願いが叶い、ゆっくり見えています。建物の佇まいが素敵です。三刀屋出身なので、永井隆博士の陳列もことの外、丁寧に見ました。ありがとうございました。
- ・近くに昔から住んでいたが、初めて宿舎に入った。
- ・島大文理二期卒。島根大学初代学長・山根新次先生が住んでおられました。当時としてはハイカラで貴重なコーヒーをパーコレーター(注釈：コーヒーを抽出する器具の一種)に沸かして、おいしく頂戴したことが、懐かしく思い出されました。
- ・新聞・テレビで知っていたのですが、来ることが出来て幸いです。
- ・近所に住んでいるので、以前から見学に来たいと思っていました。天気も良いので散歩しながら寄ってみました。外観もきれいになり、島根大学の歴史をいろいろと知ることが出来て、来

てみて良かったと思えました。

- ・大切に保存して下さい。維持管理、大変でしょうが、松江の知的財産としてよろしくお願い致します。

8 その他の活動

(1) 大学博物館等協議会2009年大会（第4回博物科学会）への参加

大学博物館等協議会は、会員相互で緊密に連絡・協力をとりあって、大学等における学術標本の収集・保存・活用の向上を図り、教育・研究の進展に寄与することを目的としたもので、2009年度は、5月21～22日、鹿児島大学にて開催された。

同時開催された第4回博物科学会では、専任の会下和宏が、「歴史・文化資源を活かしたフィールド・ミュージアム化の実践」と題して研究発表を行うとともに、島根大学ミュージアムの活動を紹介するポスターセッションにも参加した。

9 ミュージアム教員の活動記録

会下和宏 EGE Kazuhiro 准教授

研究発表等

- ・会下和宏「歴史・文化資源を活かしたフィールド・ミュージアム化の実践」『第4回博物科学会』2009.5.22（於・鹿児島大学）
- ・会下和宏「地域まるごとミュージアム化に向けてのこれまでの活動と今後」『第11回歴史・文化資源を活かした「地域まるごとミュージアム」化実践プロジェクト研究例会』2010.1.13（於・島根大学）
- ・会下和宏「歴史・文化資源を活かした「地域まるごとミュージアム」化実践プロジェクト～島根大学旧奥谷宿舎を取り巻く「ひと・まち・なりわい」をキーワードにして～」『島根大学プロジェクト研究推進機構平成21年度研究成果報告会』島根大学プロジェクト研究推進機構 2010.3.1（於・島根大学）

社会的活動（島根大学ミュージアム主催のものは省略）

- ・フィールドワーク「島根大学旧宿舎見学と松江城北地区町歩き」『山陰インテリアコーディネーター協会研修会』山陰インテリアコーディネーター協会主催 2009.11.21
- ・島根大学旧奥谷宿舎解説「建築士と歩くまちなみ・たてもの探検ツアー」島根県・NPO まつえまちづくり塾主催 2009.11.21
- ・島根大学旧奥谷宿舎解説「まつえ城北探検ツアー」NPO まつえまちづくり塾主催 2010.3.6

担当授業

【学芸員資格取得に関する科目】

- ・「博物館概論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学資料論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学情報論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学経営論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「考古学実習Ⅲ」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学総合理工学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学総合理工学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前および事後指導」(島根大学生物資源科学部学生向け) に一部協力。

【島根大学共通教養科目】

- ・「島大ミュージアム学」(分担、公開授業)
- ・「フィールドで学ぶ『斐伊川百科』」(分担)

島根大学ミュージアム年報

平成 21 年 度

発 行 2010年 4 月16日

発行者 島根大学ミュージアム

〒690-8504 松江市西川津町1060

電話 (0852) 32-6496

印 刷 株式会社 報 光 社
